

分担研究報告書

研究題目 実務保健師の災害時の対応能力育成のための研修ガイドライン（案）の
現場適用による検証 - 検証 1 -

研究分担者 奥田 博子（国立保健医療科学院・上席主任研究官）

研究要旨

本研究の目的は、先行研究において検討し作成した「実務保健師の災害時の対応能力育成のための研修ガイドライン（案）」を、A 県本庁主催研修と、B 保健所主催管内研修の 2 か所の現場に適用し、実務保健師を対象とした研修の企画、実施、評価を通して、その実用性及び効果を検証することである。各々の自治体の研修企画者と、研修ガイドライン（案）を用い、修得をめざすコンピテンシーの明確化と評価方法の検討を図り、講義、演習、リフレクションで構成されるプログラムの研修会を開催した。その結果、いずれの自治体で実施した研修においても、受講者の研修満足度は高く、焦点化を図ったコンピテンシーの習得にも一定の効果が確認できた。さらに、研修受講を契機に、実践に戻ってから、職場等の環境に望ましい変化をもたらした実践行動も確認できた。また、人材育成担当者に対する、従来実施した研修と、本ガイドラインを用いた研修との比較による検証の結果では、ガイドラインの活用は、修得をめざすコンピテンシーの焦点化が明確に図れること、受講によるコンピテンシーの変化を客観的に捉えることができること、次年度の研修企画の参考とできることの 3 点において有益とされた。以上の結果から、本ガイドラインの現場適応への実用性及び効果を明らかにすることができた。

Key words: 実務保健師，災害研修，ガイドライン，検証

A．研究目的

本研究の目的は、先行研究において作成した「実務保健師の災害時の対応能力育成のための研修ガイドライン」（以下、研修ガイドライン（案）と記す）を現場に適用し、実務保健師を対象とした研修の企画・実施・評価を通して、その実用性及び効果を検証することである。

本研究では、都道府県本庁主催研修と、保健所管内研修の 2 か所の自治体に適応し、研修ガイドライン（案）の実用性及び効果を検証することを目的とした。

B．研究方法

1．調査対象

研究者のネットワークを活用し、本研究の趣旨、協力に同意の得られた A 県と、保健所管内研修を主催する B 保健所の 2 か所のフィールドにおいて、以下

の 1) 及び 2) を調査対象者とした。

1) 人材育成担当者

研修ガイドライン（案）を用い、実務保健師を対象とする災害研修の企画・実施・評価を担うこと、また研修ガイドライン（案）の活用の際して研究者との共同に同意の得られる者とした。

2) 研修の受講者

研修ガイドライン（案）を用いた、災害研修に参加した保健師のうち、本研究の趣旨に賛同し、紙面調査への協力に同意の得られる者とした。

2．調査方法

1) 事前準備：研修の企画

研修の企画は、研修ガイドライン（案）に示した 4 つのステップを経て、自治体の人材育成担当者から意見を聴取し、

研究者が協力・支援を行う形で立案した。

2) 研修ガイドライン(案)を用いた研修評価のための調査

研修の評価に必要な資料収集は、人材育成担当者を対象とした調査および、受講者を対象とした調査により行った。

(1) 人材育成担当者を対象とした調査

研修ガイドライン(案)を用い、実務保健師を対象とした災害研修を企画・実施・評価した一連の取組過程を経て、研修ガイドライン(案)の実用性や効果について、意見を聴取した。聴取項目は以下の2点である。

問1：研修ガイドライン(案)を活用して実務保健師を対象とした災害研修を企画・実施・評価を行った本研究による研修は、これまでの研修と比べて、どのような点が、有用であると思うか。特に研修のニーズのアセスメント、研修の目標の設定、研修プログラムの構成及び方法の検討、評価計画の立案の研修企画の各ステップについて、どのような点が役立ったか。

問2：研修ガイドライン(案)を人材育成担当者が活用する上で、改善を要する部分はどのような点か。

(2) 受講者を対象とした調査

受講者の反応・満足度、獲得した知識・技術・態度、実践に戻り行動化した内容、職場等の環境に変化を与えた内容について、Kirkpatrickによる4レベルの評価の視点を用いた。無記名にて回収した質問紙調査の分析は、記述統計量を算出し、属性とコンピテンシーとの関連はMann-WhitneyのU検定を行った。統計ソフトはSPSS Ver.25.を用い、統計学的有意水準は5%未満とした。

(倫理的配慮)

調査対象者である、人材育成担当者

及び研修受講者それぞれに対して、以下に示す倫理面への配慮を行った。

1) 人材育成担当者に対する倫理的配慮

研修ガイドライン(案)の実用性及び効果の検証に関する調査の実施にあたり、事前準備(研修企画)に研究者が出向いた際、研究者より研究目的、調査方法、調査対象者の自由意思の尊重及び個人情報保護の遵守について紙面及び口頭で説明し、同意を得た。

2) 研修受講者に対する倫理的配慮

自治体の研修通知および事前アンケート実施時に書面を用い、さらに、研修当日に研究者から紙面を用い口頭で、研究目的、調査方法、調査対象者の自由意思の尊重及び個人情報保護の遵守について説明し、紙面調査回答への提出によって研究協力の同意を得た。

なお本調査は、研究代表者の所属する千葉大学大学院看護学研究科倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号31-55)。

C. 研究結果

調査対象自治体における、研修ガイドライン(案)を用いた研修企画・実施・評価の実際について、A県主催研修、B保健所管内研修の各々について、以下に示す。

1. A県主催研修(表.1)

1-1. 研修企画

A県では、毎年、本庁が主催する保健師を対象とした災害研修を実施している。研修は、県のキャリアラダーを活用し、中堅層の受講者を想定した研修として位置づけ実施している。受講希望者には、過去に研修受講経験のある保健師も含まれる場合が多く、受講者のコンピテンシーには差があることが想定された。そのため、研修受講決定者に対し、受講前段階のコンピテンシーや、研修受講の動機や要望を確認するための、受講前の調査と、研修直後評価、2ヵ月後評価の

3回の無記名自記式質問紙調査を実施することとした。

本研修で修得をめざすコンピテンシーは、超急性期； -4（被災地支援のアセスメントと受援ニーズの明確化）（10）（11）1）3）4）5）6） -5（外部支援者受入に向けた準備）（13）（14）1）2）3），静穏期； -2（災害時の保健活動の地域防災計画，マニュアル，仕組みへの反映）（64）1）とした。

1-2. 評価結果

アンケートの回収および研修受講者の属性（表.2）

研修受講者は52名であった。うち、1名は事務職であり、本研究の分析の対象は保健師のみ51名とした。受講前調査および受講直後の調査票の回収数（率）は51（100%）であり参加者のうち、約2割は管理者であった。

研修受講前

コンピテンシーの自己評価（表.3）

12項目のコンピテンシーに対する、研修受講直後の自己評価を「できる自信がある」から「自信がない」までの4段階のリッカート尺度で尋ね、「できる自信がある」4点、「概ねできる自信がある」3点、「あまり自信がない」2点、「自信がない」1点と各々点数化し、得点が高いほど自信があるとした。各項目の回答の平均値と、属性による平均値の比較を求めた。

結果、受講前コンピテンシーの、最も低い項目は、「受援の必要性と内容に関する判断ができる」 1.71 ± 0.58 であり、最も高い項目は、「所属自治体における所属組織の分掌と指示命令系統の理解」 2.27 ± 0.73 であった。特に、急性期の「受援の必要性と内容に関する判断ができる」、「市町村と保健所との連携の下、外部支援者が効果的に活動できるように受入の準備を行う」、「受援支援者に依頼する内容を特定し具体的期間、人数、依頼内容を計画し上司に報告する」の受援に

関する3項目が、いずれも1.7点台と、他のコンピテンシーに比して低い傾向が認められた。

回答者の属性別では、保健師の所属自治体種別による差は認められなかった。一方、過去に災害研修の受講歴が「有」の者は、「無」の者に比べ、「市町村と保健所との連携の下、外部支援者が効果的に活動できるように受入の準備を行う」の1項目を除く、全てのコンピテンシーにおいて有意に高かった。災害活動経験の有無においても、「有」の者は、「無」の者に比べ、12項目中8項目に有意差が認められた。

・受講動機・研修への要望（自由記載）

-1：主な受講動機

- ・過去、研修を受講したが、情報を更新する必要があると感じているため（2名）
- ・災害時のイメージが抱けず不安なため
- ・他の講義研修で知識は得たが、実際にできるのか不安を感じているため演習のある研修の受講を希望した
- ・県内の関係者と顔の見える関係を作りたい

-2 期待する内容

- ・受援側の立場で実践できる知識（5名）
- ・発災後、保健師が優先すべき役割（活動）（3名）
- ・全庁的・横断的な対応方法
- ・時間の経過による対応の変化
- ・発災前から発災後にスムーズに保健活動ができるための知識
- ・平時から意識を高めるための効果的な方法
- ・災害対策において保健師に求められる役割、位置づけの理解
- ・具体的でわかりやすい研修の希望

研修受講直後

・研修に対する満足度

研修受講直後の下記の4項目について、「とても良かった」、「良かった」、「あまり良くなかった」、「良くなかつ

た」のいずれかの選択で回答を求めた。

-1.講義

「とても良かった」40(78.4%),「良かった」11(21.6%)であった。

-2.演習

「とても良かった」37(72.5%),「良かった」14(27.5%)であった。

-3.リフレクション

「とても良かった」31(60.8%),「良かった」18(35.3%),「あまり良くなかった」2(3.9%)であった。

-4.研修全体

「とても良かった」46(90.1%),「良かった」5(9.8%)であった。

・コンピテンシーの自己評価(表.4)

本研修で修得をめざす焦点化したコンピテンシーの各項目の平均値と、属性別の平均の比較を求めた。全体では、受講前のコンピテンシーに比して、受講直後は、全ての項目が上回っていた。受講者の反応・満足度、獲得した知識・技術・態度、実践に戻り行動化した内容、職場等の環境に変化を与えた項目(表4.NO.13~17)についても、効果が認められた。

回答者の属性別では、所属自治体種別、災害活動経験の有無では各1項目、研修受講歴の有無では2項目、管理的な立場の有無では有意差が認められる項目はなかった。

・研修の受講を機に、今後取り組む予定の内容について(自由記載)

- ・マニュアル(計画,通知など)の再確認(9名)
- ・マニュアル(計画など)の修正(5名)
- ・災害時に必要な物品準備,要支援者リストの作成(5名)
- ・職場でのシミュレーション演習の実施(5名)
- ・さらに研修で学びを深めたい,定期的研修の受講希望(3名)
- ・地域(地区特性)の理解を深める(3名)
- ・上司への報告,職場での共有(3名)

- ・防災部局との話し合い
- ・災害対策の時間確保のための平常時業務の改善

研修受講2ヵ月後

コンピテンシーの自己評価(表.5)

研修受講前の自己評価と比較すると、12項目のコンピテンシーの全項目の上昇が確認できた。

所属自治体種別では、市町の保健師に比べ県保健師は、「地域の現有資源による対応を踏まえ受援が必要である課題および対象を明確にする」(<0.05),「外部支援者の種別・職務の理解ができる」(<0.01)の2項目に有意差が認められた。「避難所等巡回による情報収集の体制づくりができる」,「優先度の高い課題と対象のリストアップができる」(<0.05)の2項目は実務者よりも管理者が有意に高かった。災害活動経験の有無では「市町村と保健所との連携の下,外部支援者が効果的に活動できるように受入の準備を行う」(<0.05)のみ,経験「有」の者が,「無」の者に比べ有意に高かった。

・災害時における役割遂行に関連して意識した行動・態度面(自由記載)

- ・既存の資料(マニュアル,アクションカード)を確認した(2名)
- ・地域の状況(特徴,危険区域の有無)を確認した(2名)
- ・災害マニュアル作成に従事した(2名)
- ・災害時,自分の業務や係の業務の何を優先するべきであるかということを意識し,業務を考え,実施するようになった。まさに,今,それが活かされ,落ち着いて対応ができていく(コロナ対策)
- ・日頃から地域の状況を把握した上で,災害が起きた時の事を想定しておく
- ・市の保健師全員に,研修復命として同じ演習を実施。その際,母子保健担当課,成人保健担当課の課長(事務職)にも参加を促した
- ・災害の研修に参加,資料を読む

- ・定例会議に包括保健師も加えることを提案した
- ・受援者の立場を想定し、地域の情報がわかる資料を作成している
- ・防災部局との定例会議において研修内容を共有した

の結果、周囲や組織に及ぼした変化（自由記載）

- ・庁舎内保健師及び防災課の職員と HUG を実施。災害時の体制強化に向け、庁舎内保健師による横断的な独自の研修会及び初動時の活動について研鑽できるようコアリーダーを設け、定期的に会合を持つ事となった。
- ・研修を受講し、学ぶほどに準備ができていないことを痛感。保健師間で共通の理解を得ることができるよう申し送りをし、今後、経験年数を問わず、準備体制がとれるよう、OJT の実施について課長に承諾を得た。年度内に開始予定であったが、コロナ関連業務のため、来年度以降に実施予定。
- ・管内の統括保健師と情報を共有、協議した結果、管内で共通のフォーマットを作成することになった。
- ・管内保健師連絡会のテーマの 1 つとして共有する予定

保健師人材育成担当者

：研修ガイドラインを用いた研修企画・実施・評価に対する意見

・アンケートを事前に実施することで、研修対象者の知識や技術の習得レベル、今までの研修受講歴や派遣経験の有無、研修への要望等を確認することができ、研修の目的の明確化と研修内容の企画の参考にすることができた。

・評価アンケートの実施で、コンピテンシーの到達度や研修後の、各自の取組みを把握することができ、研修効果の判定や次年度の研修企画の参考とすることができた。

：研修ガイドラインを用い人材育成担当者が今後研修を企画・実施・評価する

上で、改善を要する点（意見）

・半日研修であったため、ガイドラインに基づく「レクチャー」、「ワーク」、「リフレクション」を実施するには、時間的に難しく、特にリフレクションの時間が十分にとれなかった。1 日間の研修プログラムが望まれた。

2. B 保健所管内研修

2-1. 研修企画（表.6）

B 保健所管内は、前年度、災害時の保健活動に関する講義研修を実施していた。そのため、本年度の研修は前年の基礎知識をもとに、演習を中心とした研修によって、コンピテンシーを獲得することが主催者のニーズであった。

本研修で修得をめざすコンピテンシーは、超急性期（フェーズ 0～1）の 1-1（被災者への応急対応）.1-3（要配慮者の安否確認と支援）.1-4（被災地支援のアセスメントと受援ニーズの明確化）と急性期（フェーズ 2）-4（外部支援者との協働による活動推進）の 7 項目とした。なお、本年度の研修受講希望者のうち、昨年度の研修の未受講者は、事前学習として、前年度の講義資料の学習を課した。

2-2. 評価結果

アンケートの回収および研修受講者の属性（表.7）

研修受講者は 20 名、全員から回答を得た（回収率 100%）。20 の受講者のうち、3 名は管理者であった。

研修受講後

研修受講直後の下記の 4 項目について、「とても良かった」、「良かった」、「あまり良くなかった」、「良くなかった」のいずれかで回答を求めた結果を以下に示す。

-1. 講義

「とても良かった」17（85.0%）、「良かった」3（15.0%）であった。

-2. 演習

「とても良かった」18(90.0%)、「良かった」2(10.0%)であった。

-3.リフレクション

「とても良かった」13(65.0%)、「良かった」7(35.0%)であった。

-4.研修全体

「とても良かった」18(90.0%)、「良かった」2(10.0%)であった。

コンピテンシーの自己評価(表.8)

本研修で焦点化した7項目のコンピテンシーのうち、最も低い項目は、「発災直後、被災地に起こりうる状況について想定する」、「外部支援者の受け入れに向け、想定される依頼内容について検討する」がいずれも 1.65 ± 0.67 であった。一方、最も高い項目は、「災害時に想定される二次的健康被害とその予防について検討する」 2.60 ± 0.88 であった。

、研修受講を契機に今後、現状の改善のために、具体的にどのようなことに取り組む予定であるかについて意見を求めた。(自由記載)

立場別(実務者、管理者)の主な回答結果については以下である。

-1 実務保健師

- ・発災直後に求められる保健活動のために把握する必要な情報項目についての検討は研修を通してまだまだ力量不足と感じた。今一度、県のマニュアルや過去の事例を勉強し、自分の役割や必要な業務をイメージしていきたい
- ・平時に準備しておく事を部内で共有、検討し、行動する。
- ・災害時の見える化の工夫を平時にしておく
- ・同僚と、有事に向けて共有(物品、要援護者の確認、外部支援者用の地図)
- ・まずは自分が平常時から何ができるか、何を備えられるかについて考えたい。
- ・普段から、自分の担当業務だけでなく、保健師業務全体、市内の状況を

把握する

- ・災害保健活動について積極的に経験を蓄積する。訓練、経験談の聴講を通して疑似体験を増やす。災害時にかかわらず、保健師としてアセスメント能力・実践能力の向上に努める。
- ・日頃から「ここが被災したら」という視点で地域に入る。
- ・保健師同士、災害時の対応について話し合う場を設ける、準備しておく
- ・防災計画をきちんと知り、自分の役割だけではなく他部署の役割も知り事前にそなえる。
- ・災害時を意識してふだんの活動を行いたい。
- ・良いコミュニケーションをとっていききたい(内部・外部ともに)
- ・通常業務や災害時の対応など、常に災害時を想定して考えてみたい
- ・自分の役割の確認、班内保健師の訪問先の把握をしておく
- ・管内の災害時行動計画の確認。記録、要支援者台帳の整備・更新
- ・日頃の業務の中で“考える”訓練をしようと思います。
- ・災害時の計画やマニュアルを改めて確認し、具体的な場面を想定して、自分がどのように動いたら良いかイメージする機会を持ちたい。
- ・ハイリスク者、発災時に被災する可能性がある地区の把握。平時から意識できればと思う。
- ・災害対応マニュアルの再確認。管内の状況等説明できるように、日々の業務の中で確認する。
- ・日常業務に落としこんで想定する。
- ・目の前の問題に意識がいてしまいがちであるが、その先に起こる二次被害など想定できないかもしれないと思った。普段から、目の前の事と、その先を見すえて判断・行動するように意識する。

-2.管理職保健師

- ・要配慮者の台帳整備等について話し合いをもつ。
- ・町保健師としての活動がどうあるべきか話し合い，共有して具体的なものを作成したいと思いました。
- ・被災地派遣のふりかえりを行う。
- ・研修内容をふりかえる。

研修受講 2 ヶ月後

コンピテンシーの自己評価（表.9）

受講 2 ヶ月後の調査票の回収数（率）は 18（90.0%）であった。本研修で修得をめざし焦点化した 7 項目のコンピテンシーの回答結果では，全ての項目が受講直後よりも上昇が認められた。最も低い項目は，「発災直後，被災地に起こりうる状況について想定する」 2.11 ± 0.83 であり，最も高い項目は，「災害時に想定される二次的健康被害とその予防について検討する」 2.61 ± 0.61 であった。

． 災害時における役割遂行に関連して意識した行動・態度面（自由記載）

- 1 実務保健師

- ・本自治体の東日本大震災当時の被災状況の確認
- ・災害や防災に関するニュースに注目するようになった
- ・要援護者との連絡ツールの確認
- ・担当市町 PHN との情報共有，マニュアルの見直し
- ・マニュアルを読み直した。
- ・自組織および担当市町村の体制図の見直し
- ・訪問中，出先にいる時の発災時にはどう動くか，日頃から意識するようになった（2名）
 - ・特になし。（あらためて復習する時間は確保できていない）

-2.管理期保健師

- ・災害時の保健活動について保健師間で話し合いをもち，体制の共有や初動体制等について検討を始めた。
- ・発災時の体制について係内で情報共有

と，どうすべきかの話し合いを始めた。

- ・研修資料を配り，各自の理解を深め自分達の町の災害時の体制と自分の役割が見える様にしてくために話し合いを進めていく予定
- ・ガイドライン，マニュアルを再度読み直した。

． の結果，周囲や組織に及ぼした変化（自由記載）

- 1 .実務保健師

- ・研修終了後に上司に所感を提出した後，災害時の本市の取り組み，課の取り組みのマニュアルを教えていただき知事ができた。
- ・自主的に確認したことなので他者への影響はなかったと思われる。
- ・同じ研修受講者のため，自分の影響ではなさそうです。

-2. 管理期保健師

- ・災害時の対応は担当としてできることは限られているため，具体的に連携先や組織内での役割を明確にしたいと考える様になった。

保健師人材育成担当者

：研修ガイドラインを用いた実務保健師の災害時研修を企画・実施・評価に対する意見

- ・ガイドラインに，災害時に求められる能力が詳細に示されており，参考になる。

．研修ガイドラインを用い人材育成担当者が今後研修を企画・実施・評価する上で，改善を要する点

- ・企画者自身が，災害に精通した者であるとは限らないため，ガイドラインの活用，理解に基づく研修の実施においては限界が生じる。特に演習の企画・実施は，適任な講師を探し，頼ることになる。
- ・いずれのコンピテンシーも重要と考えるため「焦点をあてるコンピテンシー及び知識・技術・態度の内容を定める」ことが難しい。
- ・コンピテンシーの項目数が多く，全て

のコンピテンシーを事前確認した上で確認を図る活用は非現実的である。また、高めるコンピテンシーが明らかになった場合も、どの程度の時間など企画で能力の獲得が可能なのか、具体的な例示があると参考になる。

D．考察

A 県主催研修会、B 保健所管内研修会のいずれも、研修企画段階で焦点化したコンピテンシーは、研修企画担当者の受講生のニーズ把握や前年度までの研修実態を踏まえた情報に基づくものであった。しかし、いずれの研修においても、研修に対する満足度は高く、受講後のコンピテンシーの獲得が図られており、コンピテンシーの焦点化は適切であったと考えられた。研修を実施する際、コンピテンシーの項目を評価として設問することによって、求められる能力の明確化、研修受講によって、どの程度獲得できたのかが、受講生個々の自己評価としても明確になっていた。さらに、これらの評価の客観的な集計結果が、研修の主催者の次年度の研修の企画にも活かされ、自治体主催の研修のPDCAサイクルにも有益であることが示された。

一方、いずれの研修においても、研修全体の満足度が8割以上「とても良かった」との回答を占める中で、講義や演習評価に比して、リフレクションの満足度は、6割程度であった。リフレクションは、専門家教育において、技術的合理主義による教育には限界があり、特に人を対象とした技術教育には経験から学び、理論と実践の統合を図ることが重要であるとされ¹⁾、出来事における自己の振り返りを肯定的に行い、価値を見出すことが重視されている²⁾。看護職の教育においても、その繰り返しが、看護観と自己価値観を形成し、実践知を得ていくプロセスとして有効だとされ³⁾、看護の知の発展のため概念化の教育や現場の改革に活かされている⁴⁾。災害時に求められる

コンピテンシーにおいても、演習での疑似体験は限られた時間での限界があり、演習を通じた、各自の気付きと、今後への取り組みの明確化を促すためにもリフレクションは重要な役割を占めると考えられる。しかし、今回の研修のいずれも、半日(2.5~3時間)の中で、講義、演習、リフレクションを実施した。A 県の人材育成担当者のコメントにもあったように、受講者は初めての演習体験の理解に加え、短時間での、リフレクションの経験が不全感の誘因となったことが考えられた。各自のリフレクションの結果を、他の受講者看と共有する時間の確保まで図るプログラム設計が、自己洞察をさらに深め、研修効果を高めることができたのではないかと考えられた。

E．結論

「実務保健師の災害時の対応能力育成のための研修ガイドライン(案)」を、都道府県本庁主催研修と、保健所管内研修の2か所の現場に適用し、実務保健師を対象とした研修の企画・実施、評価を通して、その実用性及び効果を検証した。その結果、いずれの自治体で実施した研修においても、研修に対する満足度は高く、研修受講後に修得を目指したコンピテンシーの獲得が図れたこと、研修受講を契機に、実践に戻り行動化した内容や、職場等の環境に変化を与えていることが確認でき、本ガイドラインを用いた研修の有効性が確認できた。

従来実施した研修と、本ガイドラインを用いた研修との比較による企画者による評価では、修得をめざすコンピテンシーの焦点化が図れること、研修受講前後のコンピテンシーの変化を客観的に捉えることができる点であった。一方、主催者が主体的にガイドラインを活用するための改善点は、設定したコンピテンシーと、修得が可能な効果的な研修プログラムの具体例の提示であった。

F . 健康危険情報
該当なし

G . 研究発表

1. 論文発表
該当なし

2. 学会発表

1) 奥田博子 , 宮崎美砂子 , 春山早苗 , 石川麻衣 , 植村直子 . 災害時における保健師の受援の検証 (第 1 報) - 受援保健師へのインタビュー調査から . 第 78 回日本公衆衛生学会総会 . 2019.10 ; 高知県 . 第 78 回日本公衆衛生学会総会抄録集 . p.505.

2) Hiroko OKUDA, Misako MIYAZAKI , Sanae HARUYAMA, Mai ISHIKAWA, Naoko UEMURA , Yoshiharu KIM and Yasuhiro KANATANI. Roles and Competencies Required of Public Health Nurses (PHNs) for Collaborative activities with External Supporters during times of Disaster in Japan. APEDNN. Hong Kong. 2019.11. p.38.

H . 知的財産権の出願・登録状況
該当なし

< 引用文献 >

1. 松尾陸 , 職場が生きる人が育つ「経験学習」入門 , ダイヤモンド社 , 2014
2. ドナルドショーン . 佐藤学他訳 . 専門家の知恵 . ゆるみ出版 . 2001
3. 安酸史子 . 経験型実習教育 . 医学書院 . 2015 .
4. 坂本了子 , 頭山悦子 . 看護の概念化による人材育成 . 看護の科学社 . 2015 .

表1. A県 研修企画シート

企画の流れ		A県
ステップ1: 研修のニーズアセスメント(研修課題の明確化)	実務保健師の現状や問題点 受講者の背景 受講者のコンピテンシー及び知識・技術・態度の現状並びに受講者のニーズ	過去、県内の一部地域では水害経験がある。また、平成30年度の西日本豪雨水害、本年度の台風19号水害時は県と市町保健師の合同チームによる派遣を経験した者がある。また保健所管内研修を経年実施している管内では、受援を想定したマッピングなどの取り組みも進んでいる。しかし、県下全体の保健師の経験、意識・知識・取組には格差がある。西日本豪雨水害の経験を経て、県マニュアルに保健師派遣の3班以降は県保健師+市町保健師の合同チーム編成となるよう防災計画を変更し、本年度の水害派遣時に適応した。この経緯によって、市町保健師も災害支援への意識は高まっている。 県主催研修会で毎年、災害を取り上げているが、受講希望者は例年多く、過去参加した者の中にも、継続的なブラッシュアップが必要と感じ受講する者もある。 県主催DHEAT研修は、対象が保健所職員であるため、市町保健師はDHEATの理解も十分ではない。災害支援や受援に関する基本的な知識を得る機会が必要。 受講者のコンピテンシー及び知識・技術・態度の現状は不明。受講者へ事前アンケートを実施する。
ステップ2: 研修の目標の設定	焦点をあてるコンピテンシー及び知識・技術・態度	・主催者ニーズ:受援を想定した災害支援の理解とそのための平時の取り組みが具体的に進む機会となることを希望する。 ・焦点をあてるコンピテンシー: -4(被災地支援のアセスメントと受援ニーズの明確化)(10)(11)1)3)4)5)6) -5(外部支援者受入に向けた準備)(13)(14)1)2)3) -2(災害時の保健活動の地域防災計画、マニュアル、仕組みへの反映)(64)1)
	期待する到達度	受援を要する災害時の実務保健師の役割について理解を得る。また、受援を想定し、各々の組織において平時から自己の役割として取り組むことを明確にし、実践に移すことができることを目標とする。
	研修の位置づけ	県主催保健師人材育成研修会
ステップ3: 研修プログラムの構成及び方法の検討	事前学習	・受講前段階のコンピテンシーの確認(4件法リッカート) ・所属自治体(部署)の防災計画、マニュアル、アクションカードなど既存資料を確認した上で研修に挑むよう通知する。
	集合型対面学習	集合型対面学習 ・令和2年1月17日(金)午後13:30-16:30 ・場所:県 会館 ・対象:保健所および市町保健師等 ・テーマ;演習:災害時の保健師の役割 1)プログラム構成(WLWR型) 13:35-13:40;研究説明 13:40-14:00;GW 自己紹介、事前アンケートを活用した情報共有 14:00-14:30;講義「災害時の保健師の役割」 14:30-14:35;GW演習説明 14:35-16:00;GW演習、発表、解説(休憩10分含む) 16:00-16:20;リフレクション、総括 16:20-16:30;研修評価(記入・提出) 2)演習事例の概要 事例:地震災害 地震時の管内(想定)被害データ活用
	事後の方向づけ	研修時に「研修2か月後の研修成果の評価のための質問紙」を配布
ステップ4: 研修の評価計画の立案	受講者のコンピテンシーの到達度の評価の計画	・研修直後の評価、2か月後の評価質問紙に、ステップ2で設定した焦点をあてるコンピテンシーについて回答を求め、変化を確認する。
	研修の評価計画	● 研修会直後:「研修受講直後の評価のための質問紙」による調査 ● 2 ヶ月後:「研修2か月後の研修成果の評価のための質問紙」による調査

表2 A県 アンケート回収率と回答者属性

1.アンケート回収結果 人数(%)

	計	所属		
		県	市町	NA
受講前、直後	51(100)	17(33.4)	33(64.8)	1(2.1)
2か月後	35(100)	14(40.0)	21(60.0)	0(0.0)

2.研修受講者属性 人数(%)

所属	人数(%)			
	計	県	市町	NA
実務者	40	14(82.4)	25(75.8)	1(100)
管理者	11	3(17.6)	8(24.2)	0(0.0)
計		17(100)	33(100)	1(100)

年代

	計	年代			
		20歳代	30歳代	40歳代	50歳以上
実務者	40	14(100)	11(100)	12(80.0)	3(27.3)
管理者	11	0(0.0)	0(0.0)	3(20.0)	8(72.7)
計		14(100)	11(100)	15(100)	11(100)

災害活動経験(応援派遣含む)の有無

	計	有無	
		有	無
実務者	40	8(53.3)	32(88.9)
管理者	11	7(46.7)	4(11.1)
計		15(100)	36(100)

災害研修受講経験の有無

	計	有無		
		有	無	NA
実務者	40	22(71.0)	18(90.0)	1(100)
管理者	11	9(29.0)	2(10.0)	0(0.0)
計		31(100)	20(100)	1(100)

表.3. A県 研修受講前の自己評価 (n=51)

NO	コンピ テンシー フェーズ 項目	設 問	計 (n=51)	所属自治体		立場		災害活動経験		災害研修受講経験	
				県 (n=17)	市町 (n=33)	管理者 (n=11)	実務者 (n=40)	あり (n=15)	なし (n=36)	あり (n=31)	なし (n=20)
1	4 (10)	ヘルスニーズの概要を迅速に把握し、優先度を考慮し対応すべき地域課題と対象を明確にする	1.84±0.65	1.88±0.78	1.82±0.58	2.30±0.82	1.73±0.55 *	2.27±0.80	1.67±0.48 *	2.00±0.68	1.60±0.50 *
2	4 (11)	地域の現有資源による対応を踏まえ支援が必要である課題および対象を明確にする	1.80±0.57	1.76±0.66	1.82±0.53	2.10±0.57	1.73±0.55	2.13±0.64	1.67±0.48 *	1.94±0.57	1.60±0.50 *
3	4 -1)	避難所等巡回による情報収集の体制づくりができる	1.94±0.68	2.00±0.87	1.91±0.58	2.30±0.82	1.85±0.62	2.33±0.82	1.78±0.54 *	2.16±0.69	1.60±0.50 **
4	4 -5)	優先度の高い課題と対象のリストアップができる	2.06±0.68	2.18±0.73	2.00±0.66	2.50±0.85	1.95±0.60 *	2.47±0.83	1.89±0.52 *	2.29±0.70	1.70±0.47 **
5	4 -6)	支援の必要性と内容に関する判断ができる	1.71±0.58	1.75±0.58	1.70±0.59	2.00±0.67	1.64±0.54	1.93±0.62	1.64±0.54	1.90±0.55	1.45±0.51 **
6	5 (13)	支援支援者に依頼する内容を特定し具体的期間,人数,依頼内容を計画し上司に報告する	1.74±0.67	1.76±0.83	1.73±1.57	2.20±0.91	1.63±0.54 *	2.13±0.83	1.58±0.50 *	1.90±0.70	1.50±0.51 *
7	5 (14)	市町村と保健所との連携の下、外部支援者が効果的に活動できるように受入の準備を行う	1.72±0.57	1.76±0.66	1.70±0.53	2.00±0.82	1.65±0.48	1.93±0.70	1.64±0.49	1.81±0.60	1.60±0.50
8	5 -1)	外部支援者の種別・職務の理解ができる	2.18±0.63	2.35±0.49	2.09±0.68	2.30±0.68	2.13±0.61	2.60±0.63	2.00±0.54 **	2.39±0.62	1.85±0.49 **
9	5 -2)	被災現場の保健師と外部支援者の協働の理解できる	2.16±0.68	2.35±0.70	2.06±0.66	2.40±0.84	2.08±0.62	2.60±0.74	1.97±0.56 *	2.35±0.71	1.85±0.49 *
10	5 -3)	外部支援者が効果的に活動できるための体制調整ができる	1.92±0.72	2.00±0.79	1.88±0.70	2.40±0.84	1.80±0.65 *	2.27±0.80	1.78±0.64 *	2.19±0.70	1.50±0.51 ***
11	2 (64)	地域防災計画から、保健師の位置づけを確認する	2.24±0.72	2.35±0.79	2.19±0.69	2.44±0.01	2.18±0.64	2.27±0.96	2.23±0.60	2.43±0.77	1.95±0.51 *
12	2 -1)	所属自治体における所属組織の分掌と指示命令系統の理解	2.27±0.73	2.47±0.71	2.16±0.72	2.33±1.00	2.23±0.66	2.40±0.91	2.20±0.63	2.47±0.78	1.95±0.51 *

・欠損値除外

・フェーズ： ;超急性期, ;静穏期

・項目：(数字) ;対応能力・コンピテンシー, (数字) 知識・技術・態度の内容

・得点レンジ 1-自信がない、2-あまり自信がない、3-概ねできる自信がある、4-できる自信がある

・平均±標準偏差

・***<0.001, **<0.01, *<0.05

表4. A県 研修受講直後の自己評価 (n=51)

NO	コンピ テンシー フェーズ 項目	設 問	計 (n=51)	所属自治体		立場		災害活動経験		災害研修受講経験	
				県 (n=17)	市町 (n=33)	管理者 (n=11)	実務者 (n=40)	あり (n=15)	なし (n=36)	あり (n=31)	なし (n=20)
1	4 (10)	ヘルスニーズの概要を迅速に把握し、優先度を考慮し対応すべき地域課題と対象を明確にする	2.74 ± 0.49	2.76 ± 0.44	2.73 ± 0.52	2.60 ± 0.52	2.78 ± 0.48	2.67 ± 0.49	2.78 ± 0.49	2.81 ± 0.48	2.65 ± 0.49
2	4 (11)	地域の現有資源による対応を踏まえ受援が必要である課題および対象を明確にする	2.66 ± 0.52	2.71 ± 0.59	2.64 ± 0.49	2.60 ± 0.70	2.68 ± 0.47	2.73 ± 0.59	2.64 ± 0.49	2.74 ± 0.51	2.55 ± 0.51
3	4 -1)	避難所等巡回による情報収集の体制づくりができる	2.60 ± 0.57	2.47 ± 0.62	2.67 ± 0.54	2.60 ± 0.70	2.60 ± 0.55	2.73 ± 0.59	2.56 ± 0.56	2.16 ± 0.62	2.60 ± 0.50
4	4 -5)	優先度の高い課題と対象のリストアップができる	2.82 ± 0.53	3.00 ± 0.50	2.72 ± 0.52	2.70 ± 0.82	2.82 ± 0.45	2.87 ± 0.64	2.77 ± 0.49	2.87 ± 0.57	2.70 ± 0.47
5	4 -6)	受援の必要性と内容に関する判断ができる	2.76 ± 0.52	2.71 ± 0.59	2.79 ± 0.49	2.70 ± 0.68	2.75 ± 0.49	2.87 ± 0.52	2.69 ± 0.53	2.87 ± 0.50	2.55 ± 0.51 *
6	5 (13)	受援支援者に依頼する内容を特定し具体的期間・人数・依頼内容を計画し上司に報告する	2.34 ± 0.59	2.24 ± 0.75	2.39 ± 0.50	2.50 ± 0.85	2.30 ± 0.52	2.27 ± 0.80	2.36 ± 0.49	2.42 ± 0.67	2.20 ± 0.41
7	5 (14)	市町村と保健所との連携の下、外部支援者が効果的に活動できるように受入の準備を行う	2.64 ± 0.56	2.71 ± 0.69	2.61 ± 0.50	2.70 ± 0.68	2.64 ± 0.54	2.67 ± 0.72	2.63 ± 0.49	2.74 ± 0.58	2.47 ± 0.51
8	5 -1)	外部支援者の種別・職務の理解ができる	3.26 ± 0.49	3.47 ± 0.51	3.15 ± 0.44 *	3.10 ± 0.57	3.28 ± 0.45	3.33 ± 0.49	3.22 ± 0.49	3.23 ± 0.50	3.30 ± 0.47
9	5 -2)	被災現地の保健師と外部支援者の協働の理解ができる	3.18 ± 0.48	3.29 ± 0.47	3.12 ± 0.49	3.10 ± 0.57	3.18 ± 0.50	3.33 ± 0.49	3.08 ± 0.50	3.16 ± 0.45	3.15 ± 0.59
10	5 -3)	外部支援者が効果的に活動するための体制調整ができる	2.69 ± 0.55	2.65 ± 0.61	2.72 ± 0.52	2.80 ± 0.79	2.67 ± 0.48	2.80 ± 0.68	2.66 ± 0.48	2.77 ± 0.56	2.58 ± 0.51
11	2 (64)	地域防災計画から、保健師の位置づけを確認する	2.84 ± 0.58	2.82 ± 0.64	2.85 ± 0.57	2.90 ± 0.74	2.80 ± 0.56	2.87 ± 0.74	2.81 ± 0.53	2.90 ± 0.60	2.70 ± 0.57
12	2 -1)	所属自治体における所属組織の分掌と指示命令系統の理解	2.98 ± 0.47	3.12 ± 0.49	2.91 ± 0.46	3.00 ± 0.47	2.97 ± 0.49	2.93 ± 0.60	3.00 ± 0.42	3.00 ± 0.45	2.95 ± 0.52
13	直後	災害時の保健師としての役割遂行に対する自覚を高める	3.52 ± 0.54	3.65 ± 0.49	3.45 ± 0.56	3.50 ± 0.53	3.48 ± 0.60	3.53 ± 0.52	3.47 ± 0.61	3.61 ± 0.56	3.30 ± 0.57
14	直後	災害時の保健師としての役割遂行に対する自信を得る	2.82 ± 0.49	2.76 ± 0.56	2.84 ± 0.45	3.00 ± 0.67	2.77 ± 0.43	3.07 ± 0.46	2.71 ± 0.46 *	2.94 ± 0.44	2.63 ± 0.50 *
15	直後	災害時に保健師として求められる知識・技術・態度について知識を得る	3.08 ± 0.40	3.06 ± 0.43	3.09 ± 0.38	3.00 ± 0.67	3.10 ± 0.30	3.07 ± 0.46	3.08 ± 0.37	3.13 ± 0.34	3.00 ± 0.46
16	直後	実務保健師としての役割遂行に対して、自身の課題を明確にする	3.18 ± 0.52	3.12 ± 0.49	3.21 ± 0.55	3.00 ± 0.67	3.23 ± 0.49	3.07 ± 0.59	3.23 ± 0.49	3.29 ± 0.53	3.00 ± 0.47
17	直後	前問 (Q.16) の改善を図るために必要な知識・技術・態度について学ぶことができたか	3.20 ± 0.57	3.18 ± 0.64	3.21 ± 0.55	3.10 ± 0.74	3.23 ± 0.54	3.20 ± 0.68	3.20 ± 0.53	3.26 ± 0.63	3.11 ± 0.46

・欠損値除外

・フェーズ： ; 超急性期、 ; 静穏期

・項目：(数字) ; 対応能力・コンピテンシー、 (数字) 知識・技術・態度の内容、直後：研修直後時点限定設問

・得点レンジ 1-自信がない、2-あまり自信がない、3-概ねできる自信がある、4-できる自信がある

・平均 ± 標準偏差

・* < 0.05

表5. A県 研修受講2ヵ月後の自己評価 (n=35)

NO	コンピ テンシー フェーズ 項目	設 問	計 (n=35)	所属自治体		立場		災害活動経験	
				県 (n=14)	市町 (n=21)	管理者 (n=3)	実務者 (n=32)	あり (n=10)	なし (n=25)
1	4(10)	ヘルスニーズの概要を迅速に把握し、優先度を考慮し対応すべき地域課題と対象を明確にする	2.31±0.53	2.43±0.51	2.24±0.54	2.33±0.58	2.31±0.54	2.40±0.52	2.28±0.54
2	4(11)	地域の現有資源による対応を踏まえ受援が必要である課題および対象を明確にする	2.34±0.64	2.64±0.50	2.14±0.66 *	2.67±0.58	2.31±0.64	2.60±0.52	2.24±0.66
3	4 -1)	避難所等巡回による情報収集の体制づくりができる	2.31±0.63	2.50±0.65	2.19±0.60	3.00±1.00	2.25±0.57 *	2.50±0.71	2.24±0.60
4	4 -5)	優先度の高い課題と対象のリストアップができる	2.53±0.66	2.79±0.70	2.35±0.59	3.33±1.15	2.45±0.57 *	2.80±0.79	2.24±0.58
5	4 -6)	受援の必要性と内容に関する判断ができる	2.23±0.77	2.43±0.65	2.10±0.83	2.67±1.53	2.19±0.69	2.30±0.95	2.20±0.71
6	5(13)	受援支援者に依頼する内容を特定し具体的期間、人数、依頼内容を計画し上司に報告する	2.17±0.66	2.21±0.70	2.14±0.66	2.33±1.53	2.16±0.57	2.20±0.79	2.16±0.62
7	5(14)	市町村と保健所との連携の下、外部支援者が効果的に活動できるように受入の準備を行う	2.32±0.73	2.57±0.65	2.15±0.75	2.67±1.53	2.29±0.64	2.70±0.82	2.17±0.64 *
8	5 -1)	外部支援者の種別・職務の理解ができる	2.74±0.61	3.14±0.36	2.48±0.60 **	3.00±1.00	2.72±0.58	2.90±0.74	2.68±0.56
9	5 -2)	被災現地の保健師と外部支援者の協働の理解できる	2.80±0.63	2.93±0.48	2.71±0.71	3.00±1.00	2.78±0.61	2.90±0.57	2.76±0.66
10	5 -3)	外部支援者が効果的に活動できるための体制調整ができる	2.14±0.65	2.21±0.43	2.10±0.77	2.00±1.00	2.16±0.63	2.30±0.68	2.08±0.64
11	2(64)	地域防災計画から、保健師の位置づけを確認する	2.71±0.52	2.86±0.54	2.71±0.52	3.00±1.00	2.69±0.47	2.80±0.63	2.68±0.48
12	2 -1)	所属自治体における所属組織の分掌と指示命令系統の理解	2.83±0.62	3.00±0.56	2.71±0.64	3.33±0.58	2.78±0.61	2.90±0.57	2.80±0.65

・フェーズ： ;超急性期, ;静穏期

・項目：(数字) ;対応能力・コンピテンシー, (数字) 知識・技術・態度の内容

・得点レンジ 1-自信がない、2-あまり自信がない、3-概ねできる自信がある、4-できる自信がある

・平均±標準偏差, 欠損値除外

・**<0.01, *<0.05

表 6. B 保健所 研修企画シート

企画の流れ		B保健所管内
ステップ 1: 研修の ニーズ ア セ ス メ ン ト (研修課 題の明確 化)	実務保健師の現状 や問題点 受講者の背景 受講者のコンピテ ンシー及び知識・技術・ 態度の現状並びに受 講者のニーズ	管内は東日本大震災時、甚大災害の地域である。しかし、当時の活動に従事した保 健師の多くはすでに退職している。また、保健師の分散配置による通常業務体制の中、 東日本大震災時の災害支援経験が、災害後の採用保健師等へ十二分に継承されてい るとは言い難い実情があり、今後の災害支援に向け懸念がある。 実務保健師の多くは、東日本大震災後の採用や異動者が多く、災害支援経験や演 習を含む研修の受講歴は十分ではない。昨年度の研修(概論講義と町の活動の実際) の受講者も一部職員に限定されている。 受講者のコンピテンシーの現状は未把握だが、市や町のリーダー保健師は、実務保 健師の災害支援に関する学びへの期待が大きい。また、本年、台風19号の経験によっ て、実務保健師は災害対応の力をつける必要性を感じている。
ステップ 2: 研修の目 標の設定	焦点をあてるコンピ テンシー及び知識・技 術・態度	・主催者ニーズ: 超急性期(フェーズ0~1) 急性期(フェーズ2)に焦点をあてること を希望するが、午前の半日の時間制限により困難な場合は、時期 超急性期(フェ ーズ0~1)を優先する。超急性期のコンピテンシー1)~(15)及び知識・技術・態度の内容 はすべて修得してほしい。 ・焦点をあてるコンピテンシー: 超急性期(フェーズ0~1)1-1(被災者への応急対 応).1-3(要配慮者の安否確認と支援).1-4(被災地支援のアセスメントと受援ニーズの 明確化)と 急性期(フェーズ2) -4(外部支援者との協働による活動推進)
	期待する到達度	実務保健師としての役割を理解し、自己の役割として意識化できるレベル修得を目指す
	研修の位置づけ	保健所主催管内保健師等研修会
ステップ 3: 研修プロ グラムの 構成及び 方法の検 討	事前学習	・所属自治体(部署)の活動マニュアル自己の役割の確認 ・昨年度の研修(基礎講義)未受講者は、昨年度の研修資料の事前学習
	集合型対面学習 1)プログラム構成・内 容 2)演習のタイプ 3)用いた事例の概要	集合型対面学習 ・令和元年11月25日(月)午前9:30-12:00 ・場所:B保健所 ・対象:B保健所保健師および管内市町保健師 ・テーマ;演習:災害時の保健師の役割 1)プログラム構成(LWR型) 9:30-9:40;研究協力説明 9:40-10:00;講義「災害時の保健師の役割」 10:00-10:10;演習説明 10:10-10:20 休憩 10:20-11:30;演習(Q.1当日、Q.2.被災3日目) 11:30-11:50;リフレクション 11:50-12:00;研修評価(記入・提出) 2)用いた事例の概要 ・シミュレーション事例案の作成(担当:保健所・総括) 事例:地震災害 東日本大震災時の管内被害データ活用
	事後の方向づけ	研修時に「研修2か月後の研修成果の評価のための質問紙」を配布。 1月下旬提出をめぐり協力依頼の説明を行う
ステップ 4: 研修の評 価計画の 立案	受講者のコンピ テンシーの到達度の評 価の計画	・演習時のグループワークの記録の提出、内容分析により、演習時点の理解度につい て分析を行う ・研修直後の評価、2か月後の評価質問紙に、ステップ2で設定した焦点をあてるコンピ テンシーについて回答を求め、変化を確認する。
	研修の評価の計画	● 研修会直後:「研修受講直後の評価のための質問紙」による調査 ● 2 ヶ月後:「研修2か月後の研修成果の評価のための質問紙」による調査

表7. B 保健所管内研修 アンケート回収率と回答者属性

1.アンケート回収 人数(%)

	計	所属	
		県	市町
受講後	20(100)	8(40.0)	12(60.0)
2か月後	18(100)	14(77.8)	4(22.2)

2.研修受講者属性 人数(%)

所属	人数(%)		
	計	県	市町
実務者	17	7(87.5)	10(83.3)
管理者	3	1(12.5)	2(16.7)
計		8(100)	12(100)

年代

	計	年代			
		20歳代	30歳代	40歳代	50歳以上
実務者	17	7(100)	6(100)	3(75.0)	1(33.3)
管理者	3	0(0.0)	0(0.0)	1(25.0)	2(66.6)
計		7(100)	6(100)	4(100)	3(100)

保健師経験年数

	計	経験年数			
		5年未満	5-10年未満	15-20年未満	20年以上
実務者	17	7(100)	6(100)	1(100)	3(50.0)
管理者	3	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	3(50.0)
計		7(100)	6(100)	1(100)	6(100)

災害活動経験(応援派遣含む)の有無

	計	経験の有無		
		有	無	NA
実務者	17	7(77.8)	9(90.0)	1(100)
管理者	3	2(22.2)	1(10.0)	0(0.0)
計		9(100)	10(100)	1(100)

表.8 B 保健所管内研修 研修受講後の自己評価 (n=20)

NO	コンピ テンシー フェーズ 項目	設 問	計 (n=20)	所属自治体		立場		保健師経験年数			災害活動経験	
				保健所 (n=8)	市町 (n=12)	管理者 (n=3)	実務者 (n=17)	5年未満 (n=7)	5-10年未満 (n=5)	20年以上 (n=8)	なし (n=9)	あり (n=10)
1	4(10)	発災直後、被災地に起こりうる状況について想定する	1.65±0.67	1.75±0.71	1.58±0.67	1.33±0.58	1.71±0.69	1.71±0.76	1.80±0.84	1.50±0.54	1.78±0.67	1.60±0.70
2	4(12)	発災直後に求められる保健活動のために把握する必要な情報項目の検討する	1.60±0.60	1.63±0.74	1.58±0.52	1.00±0.00	1.71±0.59	1.57±0.54	1.80±0.84	1.50±0.54	1.67±0.50	1.60±0.70
3	3(7)	発災直後に早急に把握を必要とする、要配慮者について検討する	2.00±0.65	2.25±0.46	1.83±0.72	1.94±0.68	1.94±0.68	1.86±0.69	2.40±0.55	1.88±0.64	1.89±0.60	2.10±0.74
4	3 -3)	発災直後に求められる、支援活動のための活動方法 (体制) について検討する	1.90±0.79	2.00±0.93	1.83±0.72	1.00±0.00	2.06±0.75 *	2.00±0.82	2.40±0.55	1.50±0.76	1.78±0.83	2.10±0.74
5	1(3)	災害時に想定される二次的健康被害とその防止について検討する	2.60±0.88	2.50±1.00	2.60±0.88	1.67±0.58	2.76±0.83 *	2.71±0.76	2.80±1.01	2.38±0.92	2.56±0.53	2.60±1.17
6	5(13)	外部支援者の受け入れに向け、想定される依頼内容について検討する	1.65±0.67	1.75±0.71	1.58±0.67	1.00±0.00	1.76±0.66	1.57±0.54	2.20±0.84	1.38±0.52	1.44±0.53	1.90±0.74
7	5(14)	外部支援者との効果的な活動のため、受け入れ準備について検討する	1.70±0.73	1.75±0.89	1.67±0.65	1.00±0.00	1.82±0.73	1.57±0.79	2.00±0.71	1.63±0.74	1.67±0.71	1.80±0.79
8	追加設問	災害時に実務保健師として求められる判断・意思決定・行動について知識を得る	1.70±0.57	1.63±0.52	1.75±0.62	1.00±0.00	1.82±0.53 *	1.71±0.49	2.00±0.71	1.50±0.54	1.67±0.50	1.70±0.68
9	追加設問	災害時における実務保健師としての役割遂行に対して、自覚を高める	1.40±0.50	1.38±0.52	1.42±0.52	1.00±0.00	1.47±0.51	1.57±0.54	1.60±0.55	1.13±0.35	1.33±0.50	1.50±0.53
10	追加設問	災害時における実務保健師としての役割遂行に対して、自信を得る	2.50±0.83	2.63±0.52	2.42±0.99	1.67±0.58	2.65±0.79	2.57±0.98	3.00±0.71	2.13±0.64	2.44±0.73	2.50±0.97
11	追加設問	実務保健師としての役割遂行に対して、自身の問題点を明確にする	1.45±0.51	1.50±0.54	1.42±0.52	1.00±0.00	1.53±0.51	1.57±0.54	1.40±0.55	1.38±0.52	1.33±0.50	1.50±0.53
12	追加設問	上記の問題点の改善を図るために必要な知識・技術・態度について学ぶ	1.55±0.51	1.63±0.52	1.50±0.52	1.33±0.58	1.59±0.51	1.71±0.49	1.60±0.55	1.38±0.52	1.44±0.53	1.60±0.52

・欠損値除外

・フェーズ： ; 超急性期

・項目： (数字) ; 対応能力・コンピテンシー、 (数字) 知識・技術・態度の内容

・得点レンジ 1-自信がない、2-あまり自信がない、3-概ねできる自信がある、4-できる自信がある

・平均±標準偏差

・* < 0.05

表.9 B 保健所管内研修 研修受講 2 カ月後の自己評価 (n=18)

NO	コンピ テンシー フェ ーズ 項目	設 問	計 (n=18)	所属自治体		立場		保健師経験年数			災害活動経験	
				保健所	市町	管理者	実務者	5年未満	5-10年未満	15年以上	なし	あり
				(n=7)	(n=11)	(n=3)	(n=15)	(n=8)	(n=5)	(n=5)	(n=10)	(n=8)
1	4(10)	発災直後、被災地に起こりうる状況について想定する	2.35±0.49	2.17±0.41	2.45±0.52	1.33±0.58	1.71±0.69 *	2.13±0.35	2.60±0.55	2.50±0.58	1.78±0.67	1.60±0.70
2	4(12)	発災直後に求められる保健活動のために把握する必要な情報項目の検討する	2.35±0.61	2.17±0.41	2.45±0.69	1.00±0.00	1.71±0.59	2.00±0.54	2.60±0.55	2.75±0.50	1.67±0.50	1.60±0.70
3	3(7)	発災直後に早急に把握を必要とする、要配慮者について検討する	2.50±0.71	2.71±0.49	2.36±0.81	1.94±0.68	1.94±0.68	2.38±0.74	2.40±0.89	2.80±0.45	1.89±0.60	2.10±0.74 **
4	3 -3)	発災直後に求められる、支援活動のための活動方法 (体制) について検討する	2.35±0.79	2.33±0.52	2.36±0.92	1.00±0.00	2.06±0.75 *	1.75±0.46	2.75±0.50	3.00±0.71 **	1.78±0.83	2.10±0.74
5	1(3)	災害時に想定される二次的健康被害とその防止について検討する	2.61±0.61	2.43±0.54	2.73±0.65	1.67±0.58	2.76±0.83 *	2.38±0.52	2.60±0.55	3.00±0.71	2.56±0.53	2.60±1.17
6	5(13)	外部支援者の受け入れに向け、想定される依頼内容について検討する	2.11±0.83	2.14±0.38	2.09±1.04	1.00±0.00	1.76±0.66 *	2.00±0.93	2.00±0.00	2.40±1.14	1.44±0.53	1.90±0.74
7	5(14)	外部支援者との効果的な活動のため、活動体制や役割分担について検討する	2.22±0.81	2.43±0.54	2.01±0.94	1.00±0.00	1.82±0.73	2.00±0.76	2.20±0.45	2.26±1.14	1.67±0.71	1.80±0.79
8	追加設問	災害時に保健師として求められる意思決定に関する理解	2.33±0.69	2.43±0.54	2.27±0.79	1.00±0.00	1.82±0.53	2.25±0.46	2.60±0.55	2.20±1.10	1.67±0.50	1.70±0.68
9	追加設問	災害時における実務保健師として求められる管理職 (上司) の補佐役割	2.06±0.87	2.29±0.49	1.91±1.04	1.67±0.58	2.65±0.79 **	2.57±0.98	3.00±0.71	2.80±1.10	2.44±0.73	2.50±0.97 **
10	追加設問	災害時に保健師として求められる知識・技術・態度全般	2.06±0.64	2.29±0.49	1.91±0.70	1.33±0.58	1.59±0.51 **	1.71±0.49	1.60±0.55	2.40±0.89	1.44±0.53	1.60±0.52 **

・欠損値除外

・フェーズ： ; 超急性期

・項目： (数字) ; 対応能力・コンピテンシー、 数字) 知識・技術・態度の内容

・得点レンジ 1-自信がない、2-あまり自信がない、3-概ねできる自信がある、4-できる自信がある

・平均±標準偏差

・***<0.01, *<0.05